

富山大学理学部後援会報



りっか

第19号 2024.3



後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。2024年度から理学部理学科6プログラムとして生まれ変わりますが、りっかは理学部の象徴として引き継がれます。

ごあいさつ

理学部後援会会長 廣清 彰徳

早春の候、後援会会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、理学部会報「りっか第19号」を発行することが出来ましたのも、ひとえに皆様の後援会活動へのご理解、ご支援の賜物と感謝申し上げます。

昨年は、WBCで日本が14年ぶりに全勝で優勝し、国民に元気をくれた事から始まった感じがします。5月には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが、季節性インフルエンザなどと同じ「5類」に移行しました。マスク生活からの変化で戸惑いもあったかと思います。生活面では、円安が一段と進み、円相場は一時1ドル=150円台まで値下がりしました。また、今年の夏は異常気象で35度以上の猛暑日の日数は全国で38地点で最多となりました。物価の上昇は今も続いています。異常気象も続き寒暖差も激しくなっておりますので、体調には十分注意して行きましょう。

学生の皆様も、日々の変化に対応する力を養いながら学業その他に挑み続けていって下さい。

今後、後援会事業の充実を図り、学部長をはじめ大学関係者と連携し支援して行きたいと考えております。

会員の皆様におかれましては、引き続き理学部後援会にご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。



保護者の皆さまへ

理学部長 松田 恒平

2024年1月1日に発生した能登半島地震においては被災された方々にお見舞い申し上げます。一日も早く穏やかな日常を取り戻される日が来ることを祈念しております。

平素より理学部の教育に対してご理解とご支援を賜っておりますことに心より感謝申し上げます。さて、

理学部では2023年度卒業生として172名の諸君を社会に送り出すこととなりました。これはひとえに保護者の皆様の愛情と励まし、そしてご支援の賜物であると存じます。コロナ禍による規制が今年度よりようやく緩和され、学生の皆さんが大学生本来の活動を取り戻しつつある1年となりましたことを保護者の方々へご報告いたします。ウクライナ戦争やイスラエルとパレスチナの衝突など不安定な国際社会情勢となった現代社会ではものごとを科学的視点により客観的に捉え、複合的に理解しつつ解決に向けて対応できる人材の育成が求められています。理学部では今年度より高度情報人材育成事業による数理情報分野の教育研究強化をはじめ、来年度には分野横断的な能力を養う人材育成に係る研究強化のため改組いたします。理学部ホームページ等で既にお気づきのことと存じますが、理学部は来年度1年次より新たな体制のスタートとなりますが、教育研究の本質についてはこれまでと変わらず、自然現象の真理探究を通して教育を行う所存であります。今後も保護者の皆様方との連携を図りつつ理学部における教育の質の更なる向上を目指して教職員一同努力して参る所存ですので、引き続き、皆様のご支援、ご協力を賜りたくどうぞよろしくお願い申し上げます。

令和6年度 キャンパススケジュール CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生 オリエンテーション ◆ 新入生保護者懇談会 ○ 授業開始(前期)
5	
6	○ 第3年次編入学試験 ◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7	
8	○ 期末試験・集中講義 ◆ オープンキャンパス ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験
9	◆ サイエンス フェスティバル
10	○ 授業開始(後期) ◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学 学生交歓芸術祭 ○ 総合型選抜 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 特別選抜
12	○ 冬季休業開始
1	○ 授業再開 ○ 大学入学共通テスト
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会 ○ 一般選抜(前期日程)
3	○ 一般選抜(後期日程) ○ 学位記授与式

富 山湾沿岸の魚類を対象に、河川から海への物質循環が、魚にどんな影響を与えているのか研究しています。昔から釣りが好きで、よく海へ行くうちに沿岸の環境に興味湧き、この研究テーマを選びました。

研究室は留学生が多く、グローバルな雰囲気です。最初は英語でのコミュニケーションに苦労したこともありますが、一緒に釣りに行ったり、サンプリングを手伝ってもらったりしているうちに仲良くなって、今は一緒に食事に行くこともあります。

春からは大学院で、同じテーマの研究を続けます。将来は研究内容を生かせる仕事に就きたいと考えています。

「超 伝導微粒子」の「転移温度」について研究しています。「超伝導」とは、金属や合金は十分低い温度（多くは -269°C ）に冷やすと急に電気抵抗がなくなる現象のこと。この超伝導体になる境目である転移温度が、微粒子になると違ってくるということが、すごく不思議で面白いと思っています。

実験の準備など大変な時もありますが、電気抵抗がなくなれば、送電時のロスがなくなるという夢のある研究です。そう思うと、研究がうまくいった時などに大きな達成感を得られます。

将来の夢は、高校の物理の先生になることです。春からは大学院で研究を続けながら、専修免許取得に向けて頑張ります。



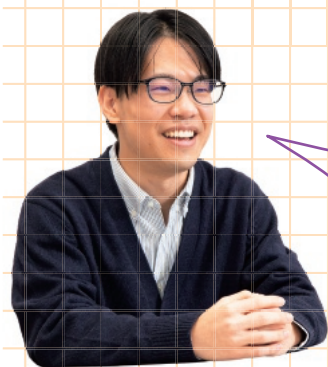
はやし けんたろう
林 健太朗さん
生物圏環境科学科4年生
(石川県出身)



かわい そうた
河合 創太さん
物理学科4年生
(岐阜県出身)

理学部 フィールド・オブ・ドリームズ

研究室やフィールドで、日々独創的な研究や、環境問題に関する研究、実験に励む理学部の学生たち。
彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。



ほんどう ゆうき
本道 優己さん
化学科4年生 (石川県出身)

「ト リアリアルアニソール」化合物をすり潰すことによって、分子が規則正しく配列していない「アモルファス」状態にして、そのメカニズムを研究しています。医薬品や半導体、有機ELにも使用されるアモルファス物質は、今とても注目されている物質です。
実験やデータの解析にかなり時間がかかるため、大変なこともあります。新しい実験で今までとは違う結果が得られた時には、やりがいや面白さを感じます。
化合物を自分でも合成してみたくて、この研究テーマを選びました。卒業後は、製薬企業で研究職や開発職に就き、社会に役立つ医薬品を研究するのが夢です。



わかつき やまと
若月 大和さん
数学科3年生 (新潟県出身)

昆 虫が植物に作るこぶ状の突起「虫こぶ」について、形成のメカニズムを研究しています。様々な植物をふさわしい環境で育てなければならぬため、苦労が絶えません。それでも形成のメカニズムに少しでも関連するようなデータが得られた時は、とてもうれしく、やりがいを感じます。また虫や植物の育成には、先生方はじめ研究室の皆さんが協力してくださるので、本当にありがたくて、いつも感謝しています。

自分の研究は、まだ基礎研究の段階ですが、「虫こぶの肥大化が世界の食糧問題解決につながれば……」という思いから、大学院に進学後も研究を続けていきたいと思っています。



よこみち あやか
横道 彩夏さん
生物学科4年生 (富山県出身)

今 は授業のほかにプレゼミで、4年に向けてゼミの予行練習をしています。学年が上がるにつれて授業も難しくなってきたので、自分だけで理解できない時には、友達と一緒に考える機会が多くなってきました。みんなで研究テーマについて話し合っ、日々学びを深めています。クラスの雰囲気はとても良くて、優秀な人が多いので、いつも良い刺激を受けています。

発表の準備や研究など大変なことも増えてきましたが、ずっと考えていた問題が理解できた瞬間は、とても楽しいです。

将来は、数学を何らかの形で生かせるような公務員になりたいと思い、そのための勉強もしています。

大学での生活や研究の体験で得たこと

理学部では、さまざまな演習や実験、研究が行われています。それぞれの研究室やゼミで、さまざまな発見や、アクシデントに出会いながらも、充実した研究ライフを送っている学生たち。

生命・物質化学プログラム専攻、物理学・応用物理学プログラム専攻、数理情報学プログラム専攻の皆さんに、日々の研究の中で印象に残った体験や、これからの進路と将来の夢についてお話を聞きました。



——研究内容について教えてください。

辻 僕たちは、光を当てると色が変わる「ホウ素化合物」の研究を二人で行っています。これまではホウ素に対して配位（結合）する原子は、窒素原子だけでした。それを、ほかの原子に変えられないかという研究です。原子を変えれば、色も大きく変わることが期待できます。

明野 いろいろな色を示した方が、調光レンズや記憶媒体、お札の偽造防止インクなどの材料として、活用の幅が広がります。辻さんは炭素、私は窒素をほかの原子に変える研究をしています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

辻 大変なのは、学会などで専門分野が違う人に、自分の考えていることを伝えることです。相手にしっかり自分の考えを伝えて、ディスカッションしていくことが、研究にはとても大切だと思っています。その分、自分の考えが伝わった瞬間は、やはりうれしいですね。

明野 新しい化合物の合成は失敗することの方が多く、先輩の研究成果や文献を調べて、常に試行錯誤しています。大変なこともあります。新しい化合物が合成できた時には、大きな達成感が得られます。



大学院 理工学研究科 修士課程
生命・物質化学プログラム2年生
(理学部化学科卒業)

辻 ひろあき
辻 弘昭さん

それから、大学のカリキュラムが変わって、自分の専門分野以外の分野について学べるようになったことも、うれしかった点です。環境や水素同位体について学んだことが、今の研究に役立っているのを感じます。

——研究室を選んだきっかけは？

辻 高校生の頃から有機化学に興味があり、「人のためになるものに携わりたい」と思っていました。学部生の頃にお世話になった先生とのご縁もあり、この研究室を選びました。

明野 大学の授業を受けるうちに、有機化学が面白くなりました。また、「みんなが使う身近な製品に関わる研究がしたい」という思いから、研究室を選びました。

——研究室の雰囲気は？

辻 先生方や先輩・後輩の間のつながりが、かなり強い研究室です。それぞれが独立した研究をしながらも、全体的な枠組みとして同じ目標を目指しています。

明野 先生にも先輩にも、質問がしやすい雰囲気です。合成や測定の操作などでは、親身なアドバイスをいただけるので、とても心強いです。

——これからの進路と将来の夢は？

辻 研究が好きで、「新しいものを作りたい」という思いがなくなって、研究職への就職が決まりました。ただ、子どもの頃から「生徒と一緒に研究ができる先生になりたい」という夢もあり、将来的にその夢にどう向き合うかは、これから考えていくつもりです。

明野 研究で培ったことを生かして、化学メーカーに就職したいと思っています。誰かに喜んでもらうことが好きなので、お客様に喜ばれる新製品の開発をしたいと考えています。



大学院 理工学研究科 修士課程
生命・物質化学プログラム1年生
(理学部化学科卒業)

あけの 明野
ありさ 有沙さん

——研究内容について教えてください。

河口 半導体の中でも特別な構造を持つ、「カルコゲン元素」について研究しています。物質にX線を当てる「X線吸収微細構造」と言われる手法を使って、物質の中の原子配置などの微細な構造を調べるといいます。

渡部 これまで誰も作っていないような金属化合物を作って、その物理特性と結晶構造を調べています。一番の目標は、超伝導物質の発見です。もし常温常圧で超伝導物質が発現すれば、送電ロスの解消やリニアモーターカーの開発にも大きな一助になります。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？

河口 筑波にある「高エネルギー加速器研究機構」で、年に3回程度実験を行っていますが、大学ごとに実験できる時間が決められているので、その期間中は寝る時間も惜しんで測定を行っています。実験自体は大変ですが、きれいなデータを得られた時は、「苦労が報われた！」という感じでとてもうれしいです。

渡部 金属化合物を作るところから始まって、その物質がちゃんとできているかという評価をして、それから構造解析と物理特性の測定をするので、実験数はとても多いです。そのため、ある実験で出たデータと、ほかの実験で出たデータが一致しない時は、やり直しになることもあり大変です。反対に、きれいにストーリーが

つながるような実験結果が出た時は、とてもうれしいです。そのため、ある実験で出たデータと、ほかの実験で出たデータが一致しない時は、やり直しになることもあり大変です。反対に、きれいにストーリーが



大学院 理工学研究科 修士課程
物理学・応用物理学プログラム2年生
(理学部物理学卒業)

かわくち れお
河口 怜央さん

——研究内容について教えてください。

稲葉 生物学科との共同研究で、金魚が水槽で泳いでいる動画から、金魚が泳ぐ座標をプログラムを用いて機械的に追跡する研究をしています。生物学の手法では、これまで色が薄い魚の座標を正確に取得できませんでしたが、数学的手法を用いることで、色の薄い魚でも厳密な座標が取得できるのではないかと期待されています。

——研究で大変だったこと、うれしかったことは？



大学院 理工学研究科 修士課程
数理情報学プログラム1年生
(理学部数学科卒業)

いなば はるき
稲葉 晴紀さん

稲葉 共同研究ということもあり、初めて顔を合わせる方も多く、最初はコミュニケーションを取ったり、情報共有をしたりすることが大変でした。LINEを使ったり、1週間に1度は顔を合わせるようにしたり

です。

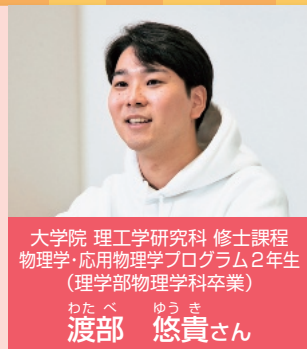
——研究室を選んだきっかけは？

河口 高校生の時に「宇宙エレベーター」について調べていて、炭素のみで構成されているチューブ状の物質「カーボンナノチューブ」を知り、非常に興味を持ったことが物理学に進むきっかけでした。また「プログラミングをしてみたい」という気持ちもあり、プログラムを使う研究室を選びました。

渡部 高校生の時に「高大連携」でいらした富山大学の先生が、「物を冷やした時にどうなるか」という実演を見せてくださったのがきっかけです。その時から「磁気低温物理学研究室に入りたい」と、ずっと思っていました。——これからの進路と将来の夢は？

河口 自動車に搭載するソフトウェアを開発するメーカーに、就職が決まりました。元々車が好きだったので車関係の会社を希望していて、大学での研究を通してプログラミングも好きになりました。将来は、コネクテッドカーの開発などを通して、安全で快適なモビリティ業界に貢献したいと思っています。

渡部 材料系か機械系のメーカーで働きたいと考えおり、希望がかなって非鉄金属メーカーへの就職が決まりました。将来は、自分が学んだことを生かして、新商品開発か材料開発の部門で働きたいと思っています。



大学院 理工学研究科 修士課程
物理学・応用物理学プログラム2年生
(理学部物理学卒業)

わたべ ゆうき
渡部 悠貴さん

して、だんだんとコミュニケーションが円滑になってきました。プログラムに関しても、ゼミで意見を共有しつつ3~4か月かけて作ったので、良い実験結果が出て、生物学科の皆さんから好評をいただいた時は、とてもうれしかったです。

——この研究をしようと思ったきっかけは？

稲葉 プログラミングに興味があったこと、いろいろな解析をやってみたいと思ったことから、この研究を始めました。

——これからの進路と将来の夢は？

稲葉 大学でプログラミング技術を学んだこと、ゼミの発表を通して人に伝える技術を学んだこと、先生やゼミの仲間との交流を通して、人と付き合う楽しさを学んだことは、自分にとって大きな経験になりました。将来は、ITやプログラムを使って、人と関わるような仕事をしたいと考えています。

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

理学部の学生は、どんな研究をしているのでしょうか？
ここでは、学生が先輩たちに研究内容をインタビューし、
その内容を分かりやすく紹介した記事を掲載します。



インタビュー

田母神 さくら

籠浦 莉央／田中 将悟／成田 健一郎／
山本 理央奈

File #029 ▶

田母神 さくら（たもがみ さくら）

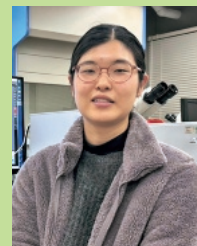
大学院 生命融合科学教育部 博士課程

生体情報システム科学専攻 1年生

（理学部生物学科卒業）

出身地：宮城県東松島市

好きなもの：アメリカンドッグ



冬季うつ病解明を目指して

～鍵はナイルグラスラット～

飼育や繁殖が容易で、遺伝的な性質が均一なラット（ネズミ）は、実験動物として新薬開発などさまざまな研究に使われている。だが、人間と違って夜行性だ。眠りにかかわる研究や、ある種のうつ病など、「光」が関与する病気の解明には、ラットより人間に近い動物が威力を発揮する。田母神さくらは、ラットの仲間では昼行性の「ナイルグラスラット」を使い、研究に励んでいる。



▲ ナイルグラスラット

■ ナイルグラスラットとの出会い

幼い頃から人間を含む動物の身体の仕組みに興味があったという田母神さん。寝たり起きたりするって何だろう？やる気が出るってどういうこと？動物図鑑を読むのが好きだった子供時代は医者になる夢を持っていたが、「生き物が好き」との思いから、大学では生物学科に進学した。

研究室を選ぶ時期に差し掛かり、池田真行教授の研究室でナイルグラスラットと出会う。アフリカに生息する、非常に珍しい昼行性のネズミである。

富山大学では、アメリカの研究グループから譲り受けたものを繁殖させながら研究している。人間と同じ昼行性のラットを調べることで、人間をより深く理解できる。夜行性、昼行性を決めているメカニズムが分かれば、行動時間を無理なく自由に選択することができるようになるかもしれない。

日本では富山大だけが取り組む、この分野の研究に魅力を感じた田母神さんは「ここしかない」と、この研究室で頑張ろうと決めた。

■ 光環境を変えて睡眠覚醒行動を観察

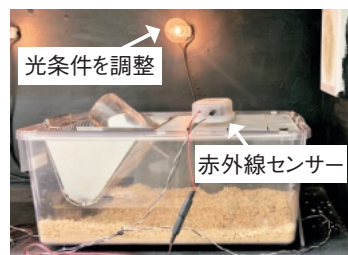
取り組んでいるのは、冬季うつ病（季節性感情障害、SAD）の研究だ。一般的うつ病とは異なり、一日の日照時間が短くなる冬に発症し、春になると症状が改善するという特徴

がある。また一般的なうつ病は不安で眠れなくなるのに対して、SADの患者は睡眠時間が長くなる傾向が見られる。

浴びる光の照度が足りないことが原因と考えられており、実際に光を浴びてもらう治療が試みられている。ナイルグラスラットも同様に、照度の低い環境で飼育すると、うつ病のような行動を示すことが米国の研究で示されている。

そこで田母神さんは、SAD患者に見られる「睡眠時間が長くなる」という症状に着目し、ナイルグラスラットを使って検証することにした。

明るさを変えてナイルグラスラットを飼育する。10ルクス、100ルクス、1000ルクスという3種類の環境で1週間順化させ、脳波や赤外線センサーを用いて睡眠・覚醒時の行動を計測、分析している。太陽光に含まれる紫外線と同じ波長の



▲ ラットの行動を感知する赤外線センサーを取り付けた飼育ケージ

光を照明に加えた場合の変化も調べている。

脳がどのように光に反応しているかを解明しようと、細胞レベルでの神経活動性にも注目している。覚醒時に活性化した細胞の分布など、詳しく評価する計画だ。

■ 「好き」が原動力に

田母神さんは、大好きなナイルグラスラットとこれからも一緒にいたい、いつか野生のナイルグラスラットをアフリカに見に行きたいという。

「一生生物に関わる仕事ができるように頑張りたい」。生物学は医学や薬学のように実用に直接結びつくものではないが、目の前の「なぜ？」を調べていくことが純粋に楽しく、それを大事にしていきたいと語る。

研究には楽しいことだけでなく大変なこともあるけれど、つらいと感じたりやめたいと思ったりしたことは一度もない、という。

幼い頃から今まで、そしてこれからも「生き物が好き」という思いを原動力に、田母神さんはナイルグラスラットと共に歩いていく。

File #030 ▶

渡邊 愛 (わたなべ あい)
大学院 医薬理工学環 修士課程
創業・製剤プログラム2年生
(理学部化学科卒業)
出身：岐阜県各務原市
好きなもの：レッドブル



体内で煌めく科学の“光”

私たちの体は数十兆個の細胞からなる。細胞内では、DNAに書き込まれた情報をRNAが写し取り、生命活動に欠かせないたんぱく質の合成などに働いている。

RNAの動きをつぶさに知ることで、より深い生命の理解や病気の解明につながる。でも、どのように？ 近年注目されているのが、RNAを光らせて追跡する方法だ。渡邊さんは、「蛍光RNAアプタマー」と呼ばれる蛍光物質を、より明るく改良する研究に取り組んでいる。

■ 研究の動機

蛍光RNAアプタマーは、結合によってその色素を強く発光させるRNAの総称で、通常はRNA 1分子からできている。しかし、現状では光が弱いこと、コストが高いことが課題となっている。

そこで渡邊さんは、より低コストで光る蛍光RNAアプタマーを作る手法を模索した。その結果、複数のRNA分子を挿入できるよう、安定的な「足場」(図1)を作るアイデアを生み出した。



図1：足場(G4重鎖)を上から見た図

■ 大きな光で輝く医療の未来

近年はコンピューターを使い、RNA分子をブロックのように自在に組み上げる技術が進歩している。渡邊さんが考案した「足場」を使えば、図2のように複数のRNAを挿入することが可能となる。

追跡したい振る舞いをより克明に把握できるだ

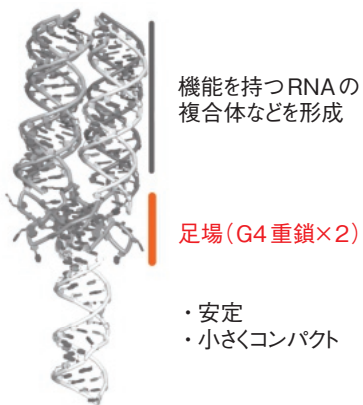


図2：足場の働き

けでなく、蛍光物質の代わりにさまざまな機能を持たせたRNAを組み合わせることで、応用の可能性はさらに広がる。

渡邊さんも、自身の研究が医薬品の開発などに役立つことを願っている。

■ 化学と薬学をつなぐ

薬の原理を学ぼうと、富山大学で理学部化学科を選択した渡邊さん。ところが、入学してみると有機化学分野でできることは想像とは違っていた。

生体分子材料を扱う井川善也教授の研究室に入門して研究を始めたところ、大学院に進むタイミングで「医薬理工学環」が設置された。

まさに、渡邊さんが憧れていた新領域である。理学的なバックボーンを活かしながら、薬学にアプローチする研究環境が整った。

■ 絶えない向上心のその先に

渡邊さんは2023年11月に行われた日本化学会北陸支部講演会・研究発表会に参加し、研究の成果をポスターで発表した。

自分が考える「良い研究」と、多くの人による客観的な評価との間のギャップを確かめたかったという。魅力的なポスター発表には、新しい視点を強調したり、導入を工夫して注意を引いたりといった「こつ」があるが、渡邊さんはギリギリまで実験を続けたため、ポスター制作にかける時間は3日しかなく、当日の朝まで推敲を重ねた。

それでも結果は「優秀ポスター賞」。研究への情熱と「最後まで諦めない心」を持つ渡邊さんだからこそその功績だろう。

■ Q&A

Q：研究を通して学んだことは？

A：情報をうのみにせず、データと照らし合わせ矛盾がないか確かめる能力、研究の組み立て方、論理的に考える能力は研究に限らず必要です。その能力を磨き、就活でも成功体験を積むことができました。

Q：最近ハマっていることは？

A：週末に金沢市を探索して「昼飲み」すること。古着屋で掘り出し物を探すこと。そこで額入りの夏の風景画が気に入って買いました。あと3つ集めて、「四季」を完成させたいですね。

これらの研究紹介記事は以下の授業で作成したものです。
「科学コミュニケーションII」
主 講 師：元村有希子(毎日新聞論説委員)
担当教員：川部達哉(数学科)、島田 互(自然環境科学科)

令和5年度 理学部後援会予算

収入の部

(R5.4.1～R6.3.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	1,005,688	
後援会費	3,200,000	・R5入学生入会予想率 75% ・過年度入学生入会者
預金利息	17	
合計	4,205,705	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	3,141,000	保護者への案内・通信 100,000 学習・実験設備等充実費 2,250,000 サイエンスフェスティバル支援 50,000 学生表彰 156,000 TOEIC試験受験支援 50,000 印刷費(会報) 350,000 海外科学英語研修支援 180,000 サイエンスメディアター記念品代 5,000
事務費	200,000	事務用消耗品類 20,000 事務用PC 150,000 振込手数料 30,000
会議費	25,000	理事会・総会
人件費	180,000	
予備費	659,705	
合計	4,205,705	

令和5年度 理学部後援会予算収支中間決算報告

収入の部

(R5.4.1～R6.1.31)

費目	金額(円)	摘要
繰越金	1,005,688	
後援会費	3,300,000	R5入生他
預金利息	11	
合計	4,305,699	

支出の部

費目	金額(円)	摘要
事業費	2,572,230	保護者への案内・通信 135,280 学習・実験設備等充実費 2,250,000 サイエンスフェスティバル支援 51,000 学生表彰 60,000 印刷費(封筒) 15,950 海外科学英語研修支援 60,000
事務費	174,181	事務用消耗品類 146,344 後援会費振込手数料負担分 27,837
会議費	22,039	理事会・総会
人件費	188,500	事務員手当
予備費	1,348,749	次年度繰越金
合計	4,305,699	

◆理学部後援会への入会のお願について

理学部後援会は、保護者と理学部との連絡を密にし、「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、多くの支援を行ってきました。

保護者の皆様におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解をいただき、是非ともご入会いただきますようお願いいたします。

会費：学部学生(20,000円)、編入学生(10,000円)(いずれも入会時のみ。)

令和5年度 理学部後援会役員

会長	廣清 彰徳(4年生理事兼任)
副会長	久々湊静代(4年生理事兼任)
副会長	池本 弘之(教員理事兼任：物理学科教授)
理事	松田 恒平(理学部長)
理事	保護者 各学年2名(計8名)
理事	教員 各学科1名(計5名)
理事	賛助会員 2名
監事	温井 智子(正会員)
監事	秋山 正和(数学科准教授)

令和5年度卒業予定者の進学・求職・就職状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	136	39	175
② ①のうち進学者数	76	21	97
③ 進学率【②／①(%)】	55.9%	53.8%	55.4%
④ ①のうち求職者数	53	16	69
⑤ ④のうち就職内定者数	44	16	60
⑤のうち富山県内	19	5	24
⑤のうち富山県外	25	11	36
⑥ 内定率【⑤／④(%)】	83.0%	100.0%	87.0%

令和6年3月1日時点調査

令和5年度理学部学生表彰

表彰の基準は、「特に成績の優れた者」です。

学長表彰者として2名、学部長表彰者として15名が選ばれています。

◇学長表彰

生物学科

萩 明日花

生物圏環境科学科

三 神 崇 重

◇学部長表彰

数学科

青 木 蓮 岳
須 藤 夕 葵
菅 田 幸 生

物理学科

新 田 亮 介
北 浩 志
坂 本 暁

化学科

川 尻 俊 太
齋 藤 一 磨
古 坊 依 歩

生物学科

山 木 泰 陽
桑 原 瞳
宮 澤 凱

生物圏環境科学科

小岩井 愛 菜
藤 沢 瞳
池 井 歩 夢

編集

後記

新年早々、予期せぬことがいろいろ起こり心痛に絶えませんが、幸い、能登半島地震の本学への影響は軽微なものでしたので、ご安心頂ければと思います。災害の少ない富山県と言われていますが、どこに住んでも防災の備えが必要不可欠であることを再認識したのではないのでしょうか。日頃から理学部の学生には、自然災害が起こった際は、正しいサイエンスの知識で行動して欲しいと伝えています。卒業後もさまざまな場所で生活を送るかと思いますが、社会に貢献出来る行動力のある人材になって欲しいと願うばかりです。4月からは理学部理学科6プログラムとして生まれ変わります。今後とも、理学部ならびに後援会へのご理解ご協力のほど、よろしくお願い致します。(理学部広報委員長・青木一真)

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-411-4803 FAX 076-445-6549
HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>
e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp